

Leading the Web to its Full Potential...

W3C組織概要

W3Cは、WWW技術の標準化と推進を目的とした、会員制の国際的な産業コンソーシアムです。アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学計算機科学研究所(MIT/LCS)、フランス国立情報処理自動化研究所(INRIA)、及び日本の慶應義塾大学の三者がホスト組織として共同運営を行っています。W3Cは、WWWに関する情報の提供、標準規格の策定と技術開発の促進、新技術のプロトタイプ実装などに取り組んでいます。

W3Cの活動とドメイン

W3Cでは、ワーキンググループ(WG)が具体的な標準規格やガイドラインの策定を行います。WGは、主にW3C会員組織とW3Cの専任スタッフから構成されます。WGが作成した標準規格やガイドラインは、会員組織と一般からのレビューに基づいて改善されます。その後、Webの発案者であり、W3Cの技術総括責任者である Tim Berners-Lee の決定により、W3C勧告となります。それぞれのWGは、以下の4つのドメインで活動しています。

Architecture Domain

Webを支える基盤技術の研究・開発

XMLを中心とした基盤規格の標準化や、HTTPに基づく通信プロトコルの開発などを行っています。

Technology and Society Domain

Webに関連した社会的問題に関する、技術的な観点からの研究・開発

RDFを中心にP3Pや電子署名など、セキュリティやプライバシー、e-commerce に関する規格の標準化を行っています。

User Interface Domain

Webにおける情報の取り扱いや表現に関する研究・開発

HTML/XHTMLをはじめとして、グラフィックス(SVGなど)、スタイルシート(CSS、XSLなど)、マルチメディア処理(SMIL)、音声ブラウザなどの仕様の標準化や、PC以外からのWebアクセスの実現、Webの国際化などの活動を行っています。

Web Accessibility Initiative (WAI)

障害者を含む全ての人にとって利用しやすいWebに関する研究・開発

W3Cの規格・技術のアクセシビリティの観点からの検証、ガイドラインの策定や、教育・啓蒙活動などを行っています。

W3Cへのご参加

W3C会員としてご参加頂くと、以下のようなメリットがあります。

- 標準規格の提案、策定に参加できる
- 規格案などの情報を、公開前に参照できる
- ワークショップ、ワーキンググループなどに参加できる
- 会員専用Webページなどを通じて、常に最新情報が得られる
- 研究員の派遣など、人的・技術的交流ができる
- W3Cの活動に対し、戦略的な方向付けができる

2001年2月現在、500を超える組織が世界各国から参加しています。この中にはコンピュータ産業や情報産業、インターネット産業をリードしている主要な企業が多数含まれています。日本からは34組織が参加しています。Web技術の全世界的な発展のためには東アジア地区からの会員参加が必要不可欠です。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げております。

W3C慶應

W3C慶應は東アジア地区のW3C会員への対応窓口です。

特に日本のW3C会員に対しては、日本語による情報提供や、Webとその技術の普及・広報活動も行っています。現在11名がスタッフとして活動しており、国際化やXHTML、モバイル機器などに関する活動や、Web Accessibility Initiative の活動に積極的に取り組んでいます。

詳しくは <<http://www.w3.org/Consortium/Hosts/Keio/>> をご覧ください。

入会希望・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください。

慶應義塾大学SFC研究所W3C
住所：〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤5322
TEL (0466)49-1170 FAX (0466)49-1171
E-mail : keio-contact@w3.org